

くどう市長と語ろう！ 第11回ふれあいトーク



日 時 平成25年12月13日(金) 19:00～

場 所 キタカラ 2階 市民活動室(中央3丁目)

《第11回ふれあいトーク 開催結果》

●参加者数 18名 (男女別) 男性16名 女性2名

【トークの内容】

1. 駅前通りの景観について
2. キタカラについて
3. まちなか居住について
4. 町内会施設について
5. 百年記念塔について
6. 稚内市の未来像について
7. 中高の連携と子育てについて
8. 市長の自己評価について
9. 植樹について(1の関連質問)
10. 自治基本条例について
11. 市役所の対応について
12. 市立病院の対応について
13. 除雪について

※参加されたみなさんより出されました上記のご意見・ご質問と、それに対する市長の発言(回答)を要約し掲載しております。内容によって、終了後に担当課において検討した結果及び付記事項等を合わせて掲載いたしました。

1. 駅前通りの景観について

◆参加者からの意見等

(質問)

キタカラから外に出て、駅前通りからの縦通りを見ると、車道は丈夫だが、歩道は何年かすると凹凸ができ、年配の方には歩きにくいと常々思っており、景観的にもデザインの的にもちょっと古い感じがする。

この縦通りはアーケードに行く場合や、郵便局、商工会議所や神社、市役所につながる非常に大事な道路だと思うが、キタカラから見ると世界が途切れてしまうような古い感じがする。

歩道をキタカラと同じデザインにすることによって、広がりというか面が出来るのではないかと思っている。

◆市長の発言

確かにキタカラを建て導線を整備するだけでなく、駅前通りを含めて整備しようという話で始まったものだと思う。

10年以上も前に全国の地方の都市再生で、市・国・道も随分と力を入れたが、キタカラが建ち、駅が整備されたら何か急に熱が冷め、その話はどこに行ったのだろうという感じがしている。どこで語るかはわからないが、ハードはこれで終りではないという話は、もう一回ねじをまかないといけないと思う。

この都市再生とは一体何だったのかを、戦略も含めて考え直していかなければと思う。何となくキタカラが出来てこれで全てが完成だと、関係者の盛り上がりも含め、地に足がついたこの後の戦略というか、そういうものは今回ご意見を頂いてつくづく思ったので、所管課ともう少しよく話をして進めたい。

決して道道だから知りませんというつもりはなく、そもそも何故そこを整備しなくてはいけないのかがどこかに忘れられてしまった感じがする。もう1度私の立場からしっかり伝え、訴えていかないと。それによっては北海道に対しても訴えていかないといけないという思いをして、意見を見せてもらった。大変参考になる意見を頂きありがたく思っている。

■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部土木課】

駅前通りは「道道天塩線」で北海道が管理しており、JR稚内駅と街並みの景観を統一することは重要と考え、平成24年のJR稚内駅オープン前から北海道に対し要望を続けてきました。

北海道からは「財政難でありなかなか実施にいたらないが、当件については、十分認識しており、検討している。」との回答を得ております。

2. キタカラについて

◆参加者からの意見等

(質問)

これまで 100 回キタカラに通い、実際に市民としてキタカラが自分にとってどう感じるか確かめた。このキタカラは旭川に次ぐ魅力であり宝だと思うが、このままなら宝の持ち腐れになると危惧している。

- ①キタカラの方向性等を考えた時、現状では観光客に向いているのか、市民に向いているのか、方向性が定まっていなかった。キタカラは道の駅でもあり、観光客を主体に考えた方が良くはないか。観光客が主体なら観光マイスターを活用してはどうか。
- ②2 階の施設の利用頻度が少なく、この市民活動室は 100 日のうち私が知る限りの 4 回利用だった。全体的な利用頻度を把握して分析すべき。
- ③施設内にビデオは 1 階だけで良いと考えており、そこで観光客向けの稚内や宗谷も含めた、リアルタイムなニュース等を流してはどうか。
- ④稚内では環境エネルギー観光をうたっており、太陽光の発電表示板が 1 階の自動販売機の横に置いているが、もっと観光客にわかりやすい所に設置すべきではないか。また、電気自動車の充電設備もあるが、案内板などが全然なく PR が不足しているのではないか。
- ⑤1 階の事務所側のトイレは、今後、落書きされる恐れがあるので、観光都市としてトイレがきれいに保つための対策を考えるべきではないか。
- ⑥キタカラ内の店舗が休むことがある。業者の事情も分かるが、ここに構える以上、休日は無いという位にしないと意味がないと思う。
- ⑦今まで通う中、非常に良いこともたくさんあった。飛鳥の寄港の写真のパネル展示、平和折り鶴の折り紙の協力依頼など、良いことだと思う。常にリアルタイムで稚内が何をしているかを伝えるため、一所懸命知恵を絞り非常に良いと思う。
- ⑧足湯と同様にアンケート用紙を置いておいても良いかなと思う。
- ⑨利用頻度が悪いのなら、稚内ブランドが今非常に高まっているので、テナントを募集して飲食街にしてみたらどうか。
- ⑩稚内はロシア・アジアなどを見据えた流通の中継基地として考え、それにはステーションホテルくらいの大きな夢を考えても良いのではないか。

◆市長の発言

- ①（キタカラが）誰に向けた施設かということは、営業戦略で1つに特化するのが効率的に良いと思うが、建設時の考え方の1つに都市再生の点で、このまちは交通の結節点ということがあった。北防波堤や埠頭を抱える駅前地域は、あらゆる交通機関が合流・結節し、国内外に向かう位置付けで整備しようという考えで、まさに旅行客や観光客が中心になるはずの施設。もう1つに、中心市街地を活性化する拠点という捉え方があり、それを考慮して子供が集まる場所や市民が交流する場所が、商店街に対して良い影響を与えるという発想からこの建物が出来上がっている。このため曖昧と言えば曖昧だが、そういう宿命で作られた建物ということをご理解頂きたい。また、観光マイスターの中から観光ボランティアガイドが生まれ、非常に熱心に観光客に対するおもてなしを実践して頂いているので、それがこの施設に対しても何らかの興味が湧いてくれればありがたいと思っている。
- ②市民活動室は、所管課の資料ではそれぞれ目的ありますが、去年1年間の統計上では166件利用され、今年度も11月末現在まででは127件利用されているので、そういう認識をしているということだけお伝えする。
- ③ビデオについては、交通の結節点ということ言えば、ここでフェリーや飛行機の運行状況が本来わからなければいけない。ビデオなどで提供されるだろうとイメージしていたが、今の状況も、いろんな関係者がいろんな話の中で今に至っていると思うので、こういう意見があるという話をする。
- ④電気自動車の話はおっしゃるとおりで、私も大事に利用頻度高めたいという思いは一緒です。ただし、冬場において電気自動車は数十キロしか走れないので、改良出来ないかと思っている。
- ⑤事務所側の1階のトイレについては、ここは道の駅ですから間違いなくトイレは生命線の1つで、トイレを大事にしないと道の駅という意味が無くなるので、それはしっかりと伝えていかないといけないと思う。
- ⑥店舗の休日については、よくホテルの時もそういう話になるけど、そもそもどういうものとして作ったのかを理解して共通認識を持つ必要がある。働く人の条件や経費もかかる話で簡単な話ではないが、そういう所から中央商店街や駅前商店街の話にまでつながる話なので、そういう問題意識はもちろん同じように持っている。
- ⑨稚内ブランドの飲食街については、ここを建てた時に本当は1階をもっと大きい飲食街というか、飲食店を入れたいという気持ちがあった。でもテナントを募集するというのは本当に難しく、結果として今の姿になっており、当然そういうご意見があるというのは伝えるが難しい話。
- ⑩ステーションホテルは、これは誰がやるかという問題も1つあるが、本当にお客さんがここに十分来ることになれば、黙っていても業界の方が飛び込んでくると思う。アジアを見据えた観光振興というのはインバウンドについてはどんどん取り組んでいきますし、その時ここは大事な施設だろうと、この地域は非常に大事だと思っている。

■ 補足・検討状況など

【担当 … 建設産業部水産商工課、政策調整部環境エネルギー課】

キタカラでは稚内市の観光情報等の動画を放送しており、それと共に航空機、フェリーの運航状況及び、直近のイベント情報等のリアルタイムな情報をテロップ表示で発信しております。

また、事務所側トイレは24時までの利用、道の駅トイレは24時間利用可能となっておりますが、清潔を保つため常日頃から巡回清掃を行っています。事務所側トイレは利用時間外に侵入した場合、センサーが作動する他、両トイレの入口には監視カメラを設置するなど、犯罪・悪質行為の防止に努めていますが、基本的には利用者のモラルを信じております。

なお、アンケートについては関係機関と協議し対応を検討していきたいと考えております。

(水産商工課)

キタカラの太陽光発電設備に加え、本市には稚内メガソーラー発電所や稚内公園風力発電所、水道部風車など再生可能エネルギー施設がありますが、現在、これら施設の発電状況についてより多くの方が身近に感じる事ができるよう検討しており、今後とも「環境都市わっかない」の取り組みを、市民はもちろん観光客などにも広く発信していきたいと考えております。

なお、道の駅に設置している電気自動車用急速充電設備につきましては、これまでも市のホームページや広報わっかない等で周知しておりますが、PRが不十分とのご意見をいただきましたので、これまで以上の周知に努めてまいります。

(環境エネルギー課)



3. まちなか居住について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①中央地区の実情は重々ご存じと思うが、住んでいる人が全然いない。人がいないので皆駐車場になってしまい景観も悪い。在住人口も減り町内会の運営にも大変苦労しており、大勢の人が住むような手立てはないものかと思っている。
- ②昔は中央や宝来に税務署や他の官庁などの施設があった。今も体育館や水夢館、市役所や病院もあるが、消防署や警察署、税務署などはもっと南で、スーパーも向こうにあり、なんかバラバラになっていて、どこに住んだら良いかわからなくて、大黒や緑がどこにでも行けるから住みやすいのかなと思った事があった。コンパクトな方が市民としても使いやすいのかなと思う。

◆市長の発言

- ①中央地区は、ある意味病院や市役所があり人の流れはある程度カバーしている地域だと思っている。市営住宅を建てればとも言われるが、もともと市営住宅は福祉政策であり、トータルの供給戸数は決まっている。ここに作ると元の場所を壊して、壊したところの住人がここに移動する。市営住宅がどこに出来るかというのは、街を賑やかにする、人の動きの活発化にはあまり役立たないことは、経験上良くわかる。やはりこの地域における昔の賑やかさは、子供の頃から良く知るのでなんとかしたいという気持ちはある。キタカラを建て、中心市街地活性化計画を使いながら中央商店街を活性化しようと取り組んで来たが、なかなか若者が来ない。若者はその地域の面白さや土地が安いなど、何か魅力がないと寄って来ない。また車が便利のためにどんどん郊外に行く。どんどん広がるということは行政としても経費もかかる。もっとまちに皆でかたまり、それが自分達にとっても良い事だということ、それがコンパクトなまちづくりということだが、そういうことを理解してもらうことも必要。
- ②昔は全部この中央地区にあったが、その時代はまだ車が少ない時代。それが車社会になると色々なものが南へ移動した。モータリゼーションに合うような利用形態のものが南へ移り、住居も自ずと引きずられていく。今はまさに虫食い状態に解体された状況だから尚更問題なのだろう。市役所や病院も同じように移動していたら、もっと違う形になっていたのかもしれない。何故ここが中心街なのかという話を良くしたが、駅や北防波堤、北ふ頭があり、そういう意味でやはりこのまちの歴史の原点で、ここは中心市街地、旧市街地だという位置付けでこのキタカラを建てる事が出来た。中心についての議論は随分あったが現在の状態に至っている。大きな店舗を建てるため広い土地を求めて郊外へ流れており、世の中の大きな流れは全く我々の考える外にあることが良くわかる。中央地区も再開発もされているが、今後もことを積み重ねていくしかないという感じがしている。

■ 検討状況など【担当 … 建設産業部都市整備課】

市営住宅の建設は、まちなかの定住人口の増加という点では、一定の効果があると考えられますが、建設用地の確保や整備水準及び全体必要戸数の面などから慎重に対応する必要があると考えられます。

今後も、民間活力の導入も含め検討していくことが必要と考えており、あわせて、現在実施している「情報ポータルサイト」や「土地・建物情報バンク」及び「まちなか住まいの相談」を充実させながら、情報発信などを継続して行きます。

また、稚内駅周辺の再開発により、人の動きが出てきていることから、H26年度の「稚内市都市計画マスタープラン」見直しに合わせて、「中心市街地活性化基本計画」や「まちなか居住推進計画」及び「住宅マスタープラン」などの改定も視野に入れ、拠点施設となる駅周辺を軸とした、まちなかの賑わい創出に向けて、新たな施策などの検討をする考えであり、中心市街地の活性化の必要性は今後も変わりありません。

コンパクトなまちづくりに関しては、全国的に様々な取組みが行われている反面、有効な対策を見いだせていない実情もあります。

現在、国等においても新たな施策の検討を行っていることから、それらの動向も注視し、当市においても東西に長い地形的な特殊条件や、新エネルギーの活用など、新たな視点でのコンパクトなまちづくりの検討を進める考えであります。



4. 町内会施設について

◆参加者からの意見等

(質問)

- 自分の町内は集まる場所がなく、個人の空家を借りここ数年活動している。文化センターやキタカラの市民活動室を使ったらどうだとも言われるが、距離もあり、贅沢だが地元で集まるということで有効に利用させてもらっている。しかし町内会費も減る中で、運営予算の中でも家賃とその維持費かかる経費が大きくなっており、何かの形で援護していただけたら有難いと思っている。
- 他の町内会の実情を聞くと、町内会館を持てば経費の問題もあり、更に過疎化や少子化が進んでいるので会館を持たない方が良いということも考えている。

◆市長の発言

中央地区に町内会館が無いことは承知しており、他の建物を改修してなんとか、以前の分庁舎で使われていた会議室を提供したらどうかなど検討されていた。各町内が苦勞しているのは承知しているが、町内会館を建てると経済的な負担となることも事実。

そうした経過から、宝来地区や東地区に活動拠点センターが建設され、今度は南に活動拠点センターを建設しようとしている。町内会館の維持管理が難しければ、ある程度のエリアをカバーしてそこに集約する方向で進め、不便さを我慢しながらもそこを中心として、行政が指定管理者に運営してもらおう方向に向かわざるを得ないと思う。

郊外においては従来の町内会館で維持されていくと思うが、今の68町内全てが町内会館を持つという方向にはならないと思う。市街地における町内会館の問題は、そういう方向で解決していくしかないのではないか。

本当に苦勞されていることや、それに対してきちんとした手立てがないということも良く理解している。また、公共施設では普通は飲食が出来ないけど、町内会の会合では飲食も必要となり、そこも難しい。今は町内会の収入もほとんどが会費しかない状態なので、中央地区に共通した悩みだと思う。どこに行ってもこの話は出てくるので、色々と考えたい。

5. 百年記念塔について

◆参加者からの意見等

(質問)

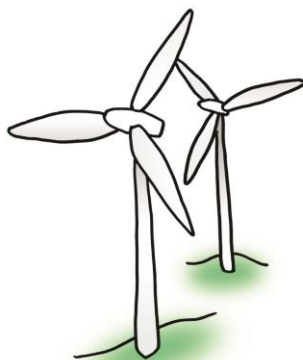
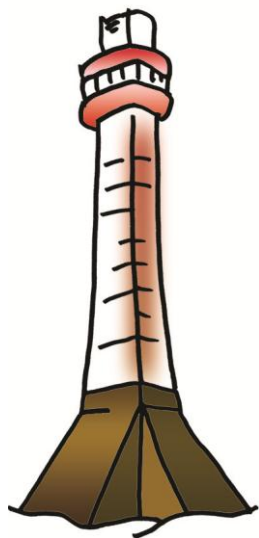
百年記念塔についてはLEDを使いクリスマスツリーにするというのはどうだろうか。あれがクリスマスツリーになれば、何と言っても観光のシンボルになる。

◆市長の発言

百年記念塔のクリスマスツリーは、発想としては面白いと思うけれども、どのくらいお金がかかるか想像もつかないので、アイデアとしては是非投げかけてみたいと思う。

■ 検討状況など 【担当 … 教育委員会教育総務課】

百年記念塔をイルミネーション(LED)で飾り付けを行った場合、冬期間において稚内公園は閉鎖されるため、百年記念塔に一般的なイルミネーションを飾りつけても、遠くから輝いて見えるかは難しく、また百年記念塔を型どるような飾り付けをする場合は、工事のために足場を組む必要があるため多額の工事費用が必要となると考えられます。



6. 稚内市の未来像について

◆参加者からの意見等

(質問)

市長が今何を考えているのかを知りたい。端的に言えば稚内市の未来はどうなっていくのか。これから若い人達が生きていく場など色々あると思う。現時点で市長の夢や希望はどんなことなのかお聞かせ願いたい。

◆市長の発言

雇用や若者に魅力が無いなど様々なことを理由とし、人口が減り若者は去ると言われるが、このまちに住む子供達には自分のまちを誇りに思えるような育て方や問いかけがあっても良い気がする。観光ボランティアの方達のように、このまちを良く知れば興味も沸き、もしかしてここで頑張ってくれるかもしれない。頑張ってくればもっと人口も増えるという思いがある。

稚内は一番北に位置して空港や港湾もあるが、これだけ色々揃っているまちは極めて珍しいと思う。その機能を発揮・拡大させようと取り組んでおり、このまちが将来に向かい下を向くことは無いと思っている。

ではどう発展させるのかと言うと、外国のそばにあることや、再生可能エネルギーの話になる。再生可能エネルギーの比率は将来に向かい増えると思う。現在は 74 基の風車が民間を中心に建てられており、更に太陽光発電施設も建設され、ここは需要だけでなく供給も出来ることがわかっている。そうしたなか原発事故が起き、再生可能エネルギーを整備する必要が出てきた。送電網が今よりもっと太ければ電力を送る事ができ、稚内だけではないが、この地域に今よりもずっと多くの風車を建てる事が出来るようになる。例えば風車を 1 基建てるにしても、部材はここで作ることは出来ないのどこかから運んでくる。そうすると当然港が使われる。更に技術者をどこかから連れてくることになり、連れて来る際には飛行機を利用する。差し当たりはそういう効果がものすごく大きい。国が法律を改正して発送電分離に向かい、まさに5年後 10 年後の稚内は風景も変わっているかもしれない。その時にただ風景が変わるだけではなく、色々なものを持つまちなので、それが最大限に利用されればもっと活気づく。

ただし、日本全体が少子高齢化で、このまちだけが特別何かあるから人口が倍に増えるだとか、何+%増えるということにはならないだろうとは思いますが、夢みたいな話はこのまちには描けるだろうと思う。そうしたことから、自分の親の仕事に興味を持ってもらうというか、好きになってもらうというか、誇りを持ってもらう教育が出来ないのかなと考えている。別にずっとこのまちに縛り付けるつもりは無く、もちろん子供達には大きな夢が必要だが、自分の故郷を大事にして胸を張って暮してもらえようようにしたい。間違いなく子供達へそういう可能性を繋いでいけるまちだと思っている。

7. 中高の連携と子育てについて

◆参加者からの意見等

(質問)

- 稚内市は幼、小、中くらいまでの子供達には随分と支援していると思う。ただし、中学から高校に上がる時に、公立高校が1校に統合されたあたりで、進学したが中学校とレベルが違うため、ついていけない子供たちが減ってきている。やる気のない子ども達が学校の中で置いていかれ、不登校になり結局中退したという話も聞く。
- 子育て平和都市宣言をして色々な事を随分丁寧に行い、幼い子を持つ親達は本当に子育てしやすいまちという感想があり、転勤して来た方は何か困った事があると、こども課に行くなど、色々な支援の場所が幼稚園や小学校の中にもある。児童委員もそうした子供達の顔にはよく触れ、親の支援も皆で気を付けようという形になってきているとは思いますが、中学を卒業した後の子供達までは追えていない。道立高校の先生方には、稚内市民として稚内の子供達のこととしてとらえて欲しい。社会に繋がる大事な時期の高校生に、私たち児童委員として関心をもって関わっていきたいと思う。
- 子育てや教育は難しい問題だと思う。そんな中、カルタが人格形成において良いと思う。昔はたくさんの町内会がカルタをして、まさに切磋琢磨して子供が育っていったと聞く。カルタはチームワークも必要で本当に知的なゲーム。きちんとした指導者のもとでやれば、子供の人格形成のうえでは最も適切だと思う。ところが市が行う大会は未だに町内会単位なので、子供の数が少ない現状を踏まえ、柔軟に対応して頂きたい。

◆市長の発言

- 中高生徒指導連絡協議会というのがあり、年に5、6回双方の情報交換を行っているようで、特に中学校で心配のある生徒が高校へ進学してどうなのかという話だと思う。北海道の話かどうか分からないが、高校を卒業して就職した後に1年以内に辞める割合も高いと聞いており、社会全体で子供が苦しんでいるのかもしれない。異常な状態になってきているような心配はしている。そういう意味でも、小学から中学、中学から高校、その都度、意思疎通を指導者同士がしっかりすることが大事だろうと思う。
- 町内会の子供が少なくなり、市民カルタ大会もかつては市民体育館でやっていたが、今では町内会館でやっても間に合う規模になっている。スポーツでも学校の児童生徒数が少なくなっているのに、中体連などは学校単位でしか出られないという現実があり、出場できない子供が多くいる。当然、市のスポーツ行政でもそういう問題意識は持っているが、指導者の問題などもありなかなか前に進まないようだが、昔ながらの発想でどんどん衰退しているというのは確かにおっしゃるとおりだと思ので、是非、教育委員会に問題提起したい。

■ 補足事項・検討状況など

【担当 … 教育委員会学校教育課、社会教育課】

高等学校においては、各学校で相談、指導を行いスクールカウンセラーなども活用し対応していると聞いております。また、中学校と高等学校間では、心配のある生徒について随時連絡を取り合い、中高生徒指導連絡協議会では定例的に会議を行い、情報共有を行っております。

なお、高等学校の不登校生徒についても、稚内市適応指導教室では相談及び継続的サポートを行っております。

引き続き、関係機関や地域などの協力を得ながら適切に対応してまいりたいと考えております。

(学校教育課)

町内会子ども育成部と子ども達の現状を踏まえ大会関係者で協議を重ね、これまでの子ども会の枠を取り払い、チームの中に他の子ども会の子どものを入れて編成するなどしてルールの見直しを図っております。したがって、学校のクラス単位やサークル等で参加することも可能です。

なお、年明けに行われた大会前には、稚子連の役員会で今後の方向性を再度話し合い、参加子ども会でチームを編成できなかった小学生や初心者の子どもの達を対象に、順位に関係なく自由にチーム編成をし、試合に参加できる場を設けました。

ただし、小学生高学年と中学生については、子ども会が主体となっている宗谷管内の大会の出場の関係もあり、勝敗を競う場でもありますので、大会ルールが適用されます。

今後も子ども達が自由に参加できる大会運営を大会関係者と連携をとりながら進めていき、市内小中学校、サークル等にも大会の周知を行うよう努めていきたいと考えております。

(社会教育課)

8. 市長の自己評価について

◆参加者からの意見等

(質問)

市長の公約の中で、現時点での到達度はどうなんでしょうか。いわゆる自己評価してどうなのか。それからこれから公約を到達させるためにどういう方向性をもっていこうとしているのか。またそれに対しての課題もあると思うので、若干お話しして頂きたい。

◆市長の発言

当時、私に対して評価をしてくれた人の多くは、30 数年間行政に身を置き色々なことをやってきたのだから、少なくともお前(市長)の言う事は荒唐無稽の話ではなく、ある程度自分なりに出来ると思うから話しているのだろう、だから評価する、ということだと思っている。全てを今回の4年の任期で完成させるという意味ではなかなか難しいと思っているが、公約については少なくとも道筋をつけるものも含めて、「ああ、やったよね」と言えるように、来年度きちんとそれぞれお示ししたい。

具体的に何をやっていないのかと言えば、例えば給食費の半減の話がある。医療費などは皆手掛けたが、当時、私が言っていた頃の時代背景を考えると、あの頃は税と社会保障の一体改革というのが進められ、一方では子ども手当の支給の良し悪しなど色々な議論があり、きっと垂れ流しみたいな子ども手当は批判されるだろうと考えていた。でもこの数年で、それに代わる何か施設整備など別な話をもって進んで行くはずだと当時は思っていた。私はそれを、1つは医療の無料化や給食費の半減に政策としては置き換えて皆さんにお示した。

今どうなっているのかというと、子育て支援は地方自治体がやる整理になっており、一方で消費税が8%になるので、財源を見ながらこの問題については来年度きちんと示したい。ただし、垂れ流しみたいな話にはしない。やはり所得の制限だとかを設け、基本的に公平とはそういうことだと思う。高所得者にも低所得者にも無料というのは公平ではないと思う。物理的な公平であって、制度としての公平ではないと思うので、そこは何らかの公平さを保ちながらやりたい。

他にはスポーツ施設の話がある。当時、声問の太陽光発電施設があるが、我がまちにとって環境だとかエコ、または健康などそういうイメージのシンボリックな施設なので、是非あの近辺にそれを利用したものを建てたいと考えていた。具体的に当時の発想だとカーリング場を何とかしたいと考えていた。今、冬のスポーツは全部停滞しており、子供達のことを考えたら、夏は色々なことが出来るが冬は極端に言えば何もやることがない。また今のカーリング場が老朽化しているので、それに取り組みたいと言う話をして今日まで至っている。

(次ページへ続く)

◆市長の発言（続き）

その間、福島原発事故が起き、（電力の）固定価格買取制度というのが出来て、声問にある太陽光発電施設は予算ベースで1年間に1億数千万の収入を産み、それは市の収入となるが、そういうお金だけのことを考えると、スポーツ施設は何もあの場所じゃなくて良いと考えている。そうしたクリーンエネルギーを利用した展開を考えるなら、今のスポーツ施設の現状では宝来体育館が非常に古くなっているが、それをただ単に置きかえるのではなく、今はその機能も維持しながらカーリング場を展開出来ないかという話をしている。ただし、今の世の中は箱物に対しての拒否感もあるので時間が掛かると思うし、丁寧に議論して失敗は繰り返したくないと考えている。すぐ建設する、しないという話はないが、きちんとこういう方向に向かいましょうということはやりたいと思っている。

新年度に向かい箱物の話になるが、南地区は社会教育センターも老朽化が進み、その前にあるグラウンドもどちらかと言えば特定の子供達が使う野球場であり、その一方で南地区には活動拠点センターという学童保育所や子供達を守るような施設がないので、それをあそこに整備したいという思いがある。これは約束した話とは少し違うかもしれないが、子育てという枠の中ではこれはこれで良いと思う。

ただし、コンパクトなまちの話をしたけれど、恐らく10年20年前も今もほとんど市の予算規模は変わってない。人口は1万とか2万も減少したが、当初予算でいうと一般会計で230億、水道と病院も入れて400数十億の予算規模はそんなに変わっていない。先ほど話したように、どんどん郊外に広がっているから建設費もかかるし道路や水道に係る経費もかかる。もっと少なくしたいと思うが、ここを少なくする事は市民生活に影響を与えるので簡単に下げる訳にはいかない。その中で今の話のような箱物にお金をかけるというのは臨時的で、一時的に借金して建てるので起債比率は上がることが前提だが、でもそれを説明のつく範囲できちんと話を整理できるかどうかだと考えている。

例えば医療費の無料化もそうだが、給食費の話も経常経費である。1回やったら毎年必要になる。少なくとも値上がりしたらその分だけ値上がっていく。だからこれは本当に慎重にやらないと、まちの財政を硬直化させるので、むしろ箱物よりも慎重に取り掛からないといけないという思いで取り組んでいる。これらの話については、4年後に「なるほど」と言われるように来年一年間頑張りたいなと思っている。

9. 植樹について

◆参加者からの意見等

(質問)

市内にあじさいを植えたらどうかと考えている。あじさいは比較的簡単に挿し木で増やせるし手入れがいらぬ。春から秋にかけて緑が楽しめて、8月15日が稚内の開花の平年値で、それ以降に花が咲くと涼しくなれば1ヶ月位もつ。お金はかかりません。根が付いて、芽が出たらそれをどこかに植えるための場所などについては相談をさせていただきますという話をしている。ハードの補完としてのソフトとしてのそういった花を育てるといったことはどうかと思っている。

◆市長の発言

花を増やすのは全く同感で、皆が稚内にはあじさいがふさわしいという声が出たり盛り上がれば、それを大事に増やしていくのが良いという話にもなる。

そのため、先ずはテストというか、市民の目に触れるどこかに植えてみて、皆がどんな反響を持つのか、それを確かめて手を広げるのが良いと思う。あじさいに関わらず、花をもっと増やす、緑を増やすという意味ではほとんどの人が共感すると思う。

■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部都市整備課】

市では、平成16年策定の「緑の基本計画」に基づき、地域のコミュニティ形成や美しいまちづくりなどを目的として、身近な緑や花壇植栽などを展開してきています。

この取り組みは、NPOや町内会など地域主導でまちづくりが行われることが一つの目的でもあり、最近、町内会で沿道にプランターの設置や団体による公共的施設等の花壇整備などが、自主的かつ継続的に実施されるなど、一定の成果が上げられていると判断しています。

これらの状況から、現在市としては、植樹マスや花壇の設置など、植栽場所の提供を中心とした支援を行っていることから、「あじさい」の植栽についても、他の取り組み同様、植栽場所提供などの協力は可能と判断しております。

10. 自治基本条例について

◆参加者からの意見等

(質問)

自治基本条例が忘れられていないかと心配している。5年を経過しない段階で見直しをするということが条例で定められているが、実際には5年が経過しても見直されていない。まちを作る為の基本的な事柄で、色々なことが書かれており、是非忘れて欲しくないの見直しを欲しい。

◆市長の発言

私も当時は、条例に見直しについて規定され、5年に一度見直すことを覚えていた。見直しの時期に、条例を作った委員の方々に見直しについてお尋ねをしたところ、結果として社会情勢に大きな変化がないことから見直さないという結論に至ったと、所管課から説明を受けている。条例自体はそうした手続きを踏まえて作ったものであり、この条文は大事にしようと思っている。



1.1. 市役所の対応について

◆参加者からの意見等

(質問)

- ①親族などが亡くなった際、市役所の窓口が届出しなければいけないものが多いが、一ヶ所の窓口で済むようにならないものかと常々思っている。
- ②高齢者の問題は色々と複雑なものが多いが、介護高齢課や包括支援センターで即対応してもらい、そんな例を町内の中で見ていると、自助共助公助などがある中、何でも市役所にといいところがあるが、やはりありがたい。これからは正義の味方になって欲しいし、即、頑張れる動けるそれぞれの係であって欲しい。
- ③海側の下水のマンホールが崩れて砂が入るので、すぐ市役所に電話したら、10分くらいで早速対処してくれた。また古い木造の家の鉄板が飛んできて、もう少し風が吹いたらとれそうで危ないので電話すると、やはり来て応急処置していったくれたようで、本当に好感が持てる対応してくれている。
- ④後継者が無く傾いた家や、空き家に積もった雪について市で対応して頂いて感謝している。

◆市長の発言

- ①市役所1階の総合窓口課において、同じような手続きで「あっち行けこっち行け」としないように取り組んでおり、今は総合窓口課で取り扱っている。
- ②③ありがとうございます。去年も今年も冬は大変厳しく、特に高齢者或いは高齢者同士の問題などは、生活福祉部が皆で手分けしてその対応をしているはず。また土木課など生活に密接につながる部署については、出来るだけそういう対応を今後ともさせていく。何かあれば是非一報を入れて頂ければありがたいと思う。よろしくお願ひしたい。
- ④空き家は社会問題で市でも調査して対応を検討している。国も動いているようなので、それを見極めてから対策しよう考えている。我々も今出来る範囲、消防署や防災安全課に動いてもらっているが、非常に悩ましい話である。

◆(政策調整部長の回答)

- ①例えば足の不自由な方には、各手続きの担当者がその場所に行き、あらためて「あちらに行って下さい」ということはしないということにしている。

■ 検討状況など 【担当 … 生活福祉部総合窓口課】

市では『ワンストップ行政サービス』をスローガンに、一つの窓口に関連する手続きが完了できるよう努めております。市民の皆さんに最も身近な住所異動届、戸籍届出、各種証明、国民健康保険、後期高齢者医療保険、国民年金、医療助成などの手続きが、総合窓口課の窓口で可能となっております。

12. 市立病院の対応について

◆参加者からの意見等

(質問)

市立病院で高齢者に酷い対応をした医師がいたと聞いている。他にも、医師を変えてもらおうと相談したが無理だと言われ、結局、別の病院に行った人もいるという話も聞いている。

◆市長の発言

私も色々な所で色々な話を伺い、聞いた話は当然、事務局を通じきちんと伝わるようにしている。今の地域医療は大変で、循環器内科は働きかけてもなかなか来てもらえないが、市立病院には色々な科目があり32人の医師がいる。一方で、開業医ではなく、もっと勤務医を連れてきて欲しいという話もあり、我々もとにかく行ける所には出来るだけ行きお願いはしている。数が増えれば良いという問題ではないというご意見はもちろんあると思う。それはそれできちんと伝えるものは伝えるが、数を増やすということも非常に大事。

また、医師は何にでも精通している訳でなく、基本は医師になるための国家試験を受かる能力があるということだと思う。だからと言って、患者に対して不快感を与える様なことを野放しにする話ではないが、それはそれである意味頭に入れてもらわないといけないと思う。

なお且つ今は研修する先を自分で決める時代なので、稚内と他の市町村でどっちに行くかと言われた時、稚内には行きたくないと言われたら我々も皆さんも困ってしまう。それぞれの努力で診療科目を維持するために医師の数を確保しなければならない。中には色々な人がいることをある程度理解してもらい、最近では、もしどこかの市町村と天秤にかかる時があったら稚内へ行きたいと思うようなまちにしていこうと言っている。

医師の確保は深刻で、離島も抱えていていることなども理解してもらい、何とか医者を確保して欲しいとお願いしている。そういう意味では皆さんの気持ちは良くわかり、面白くない思いもあるだろうが、我慢してくれとは言わないけれども、意見はきちんと伝えたい。先ずは診療してもらうこと最優先とし、交替の医師が間違いなく来てくれることを何としても確保したい。

■ 検討状況など 【担当 … 市立病院事務局庶務課】

事例については、事業管理者、院長に報告をしております。

当院といたしましては、医師の確保・診療科の維持に向け、医師派遣元の各医育大学、北海道及び関係機関に引き続き働きかけを行い、地域医療の堅持を図っていきたいと考えております。

13. 除雪について

◆参加者からの意見等

(質問)

(市の)除雪の仕方だが、道路の雪を1人暮らしお年寄りの所も健常者の所も同じように、雪を機械で押した重たい状態で玄関前に置いていく。スコップを持った除雪部隊もおらず、機械で押しそのままなので綺麗にならない。そして道路に雪を出すなど言い、道路の雪をこちらに置いていく。業者の方には申し訳ないが、市職員も監督みたいな形で除雪している現場に立ち会ったことはないと思う。また、予算の都合もあるだろうが、国道と市道、道道の除雪の仕方の違いは歴然としている。

◆市長の発言

除雪における国道、道道、市道の連携は、いつも関係者が集まる時に話をするが、それぞれ予算の中で動くため、なかなか全部が同じようにならないというのわかる。交差点は道路管理者の事情ではなくて、交通利用者の安全をお互い考えようと言っている。

また市街地だけではなく、760平方キロメートルという面積を抱え、その延長距離は相当なもので、それを手分けして除雪している。逆に言えば職員がそれに全部貼り付くことは不可能。だから何もしなくて良いということではなく、出来るだけオペレーターをしっかりと指導しながら、より良い除雪をして欲しいということ。除雪に関しては色々な問題があるが、このまちの規格で稚内の除雪は決して悪くないという評価を頂いていることも事実。

どんどん道路が広がるなかで更に丁寧な除雪にするため、そして予算も抑えなければいけないとなれば、自助共助公助の様な話で、ここまでは除雪業者がやるけれどここから先は皆さんでなんとか対処して下さい、というお願いもせざるを得ないを考える。ただし、お年寄りの生活などは別な話なので、そこはそういうことを出来るだけ意識し、オペレーターにどんな指導しているのかわからないが、土木課でもどこまでお年寄りの家庭を把握しているのか確認しないとわからないが、その話は伝えたいと思う。

■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部土木課】

玄関先の雪については、お年寄り家庭にかかわらず、できる限り、置雪のないように指導しておりますが、やむを得ない場合もあるため、パトロールを強化するとともに通報による状況を確認しながら現地対応してまいります。

また、国道、道道、市道の連携につきましても、情報交換を密にし、効率的な除排雪ができるように、取り組んでおります。



<多くの皆さんにご参加いただき、活発な議論が交わされました。
ご参加いただきありがとうございました。>